

## 大和郡山市の近代都市に向けての可能性とオーバーツーリズムの解決

3年2組 8番 笠目琥太郎  
3年3組12番 唐木春樹

Keyword: 「近代都市」「住み続けられる街づくり」「奈良県」「大和郡山市」「リニアモーターカー」

## 1. はじめに

私たちは大和郡山市の復興について探究した。この探求を始めた理由としては、奈良で観光客が多いところは大仏がある東大寺で、その寺以外は観光名所としてのイメージがなく、折角なら大和郡山市を復興して人気の場所にしようと思ったことだ。大和郡山市を選んだ理由としては、私たちが住んでいる場所が大和郡山市で、近くの商店街が廃れてきており、今も経営できているのか不思議な店が多くあるため、このままでは市としての存続が危ういのではないかと考えたためである。私たちは、昔は大和郡山市が栄えていたことを昔の写真を見て知っており、そこで昔と同じようにもう一度栄えさせるにはどうすれば良いのかを探究した。

## 2. 序論

現在奈良市ではオーバーツーリズムが社会問題となっており、外国人観光客が多く来ている。大和郡山市を昔のように賑やかな場所にするには、奈良市に観光に来る観光客を大和郡山市に呼び込む事が重要だと考える。そのためには「どうしたら外国人観光客に今の大和郡山市を知ってもらえるのか？」ということが問題であった。それにより大和郡山を賑やかにしつつ、奈良市の社会問題も解決しようと考えた。

先行研究では、奈良市のオーバーツーリズムの問題への取り組み方を選んだ。奈良市ではオーバーツーリズムの対策費として1億2000万円の予算を計上し、混雑状況の把握には、観光客が持つ携帯電話のデータ活用を検討している。デジタルサイネージやアプリで観光客に伝え、混雑時には他の場所への誘導を図り、混雑緩和できるように取り組んでいる。そのほかには日本最古の道とされる「山辺の道」の活用も目指している。道の管理などを担うボランティア活動を通じ、周辺住民と触れ合う「ボランティアツーリズム」のような、閑散期でも訪れてもらえる事業の展開を想定している。県は対策を組み合わせ、観光客の分散を図る一方で、魅力が知られていない県内各地の観光スポットに足を運んでもらう機会を作ろうとしており、具体的な対策を定め、年度内の実施を目指している。

それに加えて観光施設や交通機関の混雑が大きな問題として近年取り上げられている。また、レトロな風景や日本家屋の価値が見直されていることがきっかけとなり、私有地への無断侵入や、無断写真撮影なども報告されている。また、これまでホテルや旅館など、地域住民の居住地とは異なる地域に存在していた観光客の宿泊施設が、民泊の普及により住宅街にも現れるようになった結果、観光客が住宅街に出入りすることが増え、夜間の騒音やゴミ捨てなどの問題も起きている。住宅街などの細い道にも観光客が訪れるようになり、車道の占領や、住民が運転する車両との事故も問題となっている。

混雑やそれに伴う観光サービスの質の低下が、観光地としてのブランド価値の低下を招いている。京都市においても、観光客を対象としたアンケート調査で不満要因の自由回答にお

いて、「混雑」が最も多く挙げられており、観光体験の悪化はリピーター獲得にも悪影響を及ぼすため、注視すべき重要問題の一つになっている。

歴史的建造物などは、多くの観光客が訪れることによって劣化が進んでいる。マナーの悪い観光客の落書きや立ち入り禁止場所への侵入によってもさらに劣化が進み、寺社などではインバウンド観光客向けに外国語での表示が増え、風情が失われているといった懸念も存在している。

こうした観光によって引き起こされる問題の中には、文化や価値観による違いによって発生する問題もある。観光客が意図せず、母国の価値観に基づいて行った行為が観光地においては問題を生じる場合もある。全てを観光客のマナーの問題として片付けるのではなく、観光地側の説明、情報の共有が求められている。

そこで私たちは大和郡山市を賑やかにするには、昔の大和郡山市を知ることが大事だと思い、大和郡山市にある寺の僧に話を聞いたり曾祖母の昔の写真を見た。

大和郡山市の寺の僧は、「今よりも娯楽施設が多かった。特に映画館が多い。」と言っていた。

昔の写真では今は潰れた「ロンドン」(資料1)というパン屋さんがあり、その店の写真では幅広い年齢層の客が訪れており、僧の人も柳町商店街で繁盛していたパン屋さんだと言っていた。

### 3. 本論

私たちが行ったことはリーフレット(資料2)の作成だ。私たちはリーフレットだと簡単に手に取ってもらえ、見てすぐ大和郡山市のリーフレットだと分かりやすいと考えた。そのため、気軽に取れて大和郡山市の復興に繋がるリーフレットを選んだ。そこで私たちは外国人観光客用の英語のリーフレットを作った。

表面には大和郡山市の地図と表紙を載せ、裏面には表面からいくつか日本らしい場所をピックアップし、その場所の名前や写真QRコードを載せ、それを読み込むと英語のサイトに移る仕組みにした。また多くの外国人観光客は大仏といった日本らしい場所を目的に訪れるので、大和郡山市の歴史ある城跡や藍染の店だつたりを掲載した。

しかし、リーフレットをどこに置くかが問題だった。候補の一つ目は柳町商店街に設置している大きな地図が載っている看板だ。休日によくその看板を見て、観光する場所を決めている人がいるのでそこを選んだ。二つ目は駅のホームである。駅のホームではよく冊子が置いてあるため最適だと思い選んだ。

しかし、今回の探究では作成したリーフレットを置く許可を取る手前で終わった。

また大和郡山市にリニアモーターカーが誘致される話が出ており、それにより大和郡山市がどう変化するのか、また、近鉄郡山駅が郡山図書館の方に移動するのでその周りがどう発展するのかが気になる。今大和郡山で発展している場所は駅周辺であるが、駅の移動によりそこが今と同じように賑やかな場所であるのかが心配だ。さらに、誘致されることにより今よりも短い時間で大和郡山市に来れたりもするため、今よりも発展し、昔の大和郡山市のように復興するのではないかと考えた。しかし、私たちは今ある良さを残しつつ、新たな大和郡山市にするために、私たちは今まで通りの地域に寄り添った店が周辺にある大和郡山市を目指すべきだと考えている。

### 4. 結論

私たちは大和郡山市を復興させるために一からリーフレットを作成した。そのリーフレットは外国人観光客用に全て英語で作成した。さらにQRコードを載せ読み込むと英語のサイトに移る仕組みにしたりと色んな工夫をした。しかし最終的には市にそれを設置する許可を得る手前で終わった。

今後もし、リニアモーターカーが誘致された場合、大和郡山市にどのような建築物が増え、昔の大和郡山市ではなく新しい大和郡山市になることが予想されるが、その時に大和郡山市の魅力を再発見し、発信し続けていくことが重要だと考えている。

#### 5. 終わりに

私たちは今回の探求を通して初めて知る大和郡山市の魅力もあり、リーフレットの制作の難しさを知った。しかし、私たちなりのオーバーツーリズムの解決策を考え実行したことは良い経験になったと考えた。これから先、リニアモーターカーが誘致されたらまた大和郡山市も変わると考えているので、大和郡山らしさがありつつ、新しくなった大和郡山市とはどう発展していくのかを見てみたいと考えた。

#### 6.参考文献・出典

先行研究 前川和弘 観光公害対策 県が本腰 読賣新聞オンライン 2024 4/19  
<https://www.yomiuri.co.jp/local/nara/news/20240419-OYTNT50027/>  
2024 11/8

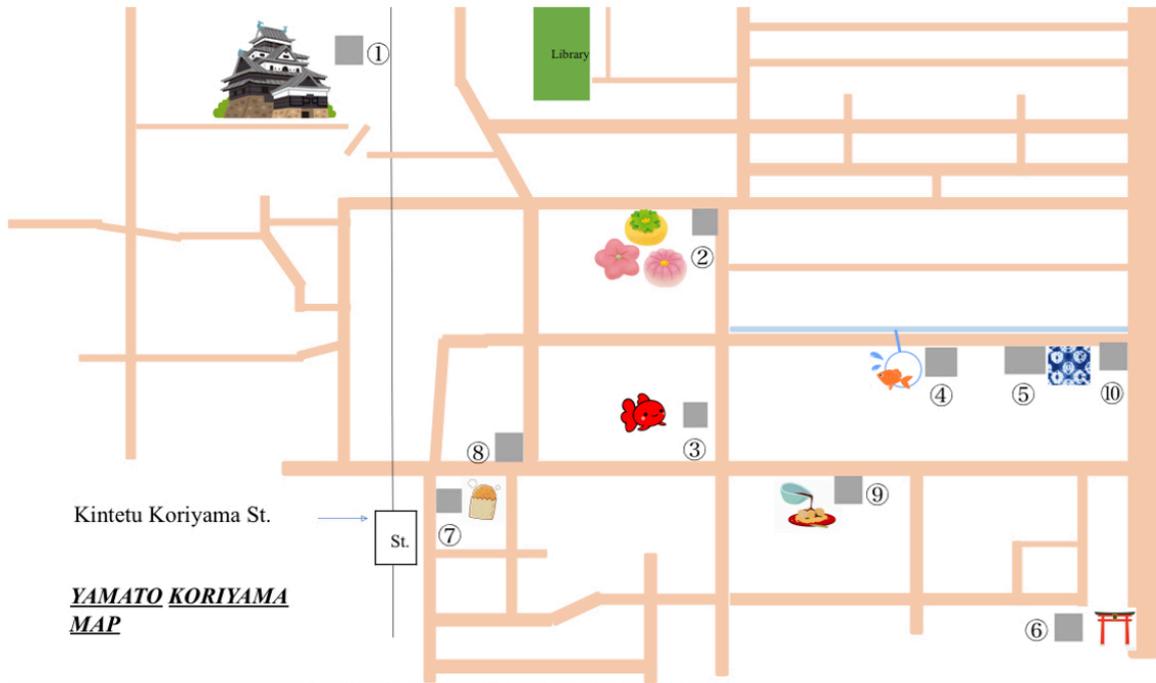
#### 資料1 内見



#### 資料1 外見



資料2↓



**YAMATOKORIYAMA  
AMA  
CITY MAP**

TRADITIONS &  
FOODS

Other side

<p>① YAMATOKORIYAMA CASTLE</p>	<p>④ SOUVENIR SHOP</p>	<p>⑦ HAYASHIKOKORO</p>
<p>② HONKE KIKUNA</p>	<p>⑤ HAKOMOTOKAN-</p>	<p>⑧ ARAN</p>
<p>③ KINGYO</p>	<p>⑥ GENKUROINARI</p>	<p>⑨ CAFÉ</p>
<p>⑩ OSTERIA</p>		